

令和3年度 学校評価自己評価表 安芸太田町立上殿小学校

2学期

教育目標		ふるさとを大切にし、自ら学び、将来をたくましく生きぬく児童の育成						
学校経営の重点		○主体的な学びの育成 ○基礎基本の定着・活用 ○体験活動を通じた豊かな感性の育成 ○基本的生活習慣の確立						
中期経営目標		短期経営目標	担当	目標達成のための方策	評価指標	資料	2学期達成状況	2学期 最終コメント
確かな学力の定着	主体的で深い学びのできる児童を育成する。	学びに向かう力を高め、深い学びを育成する。	教務	深い学びのある単元づくり・授業づくりを通して、課題を発見する力、主体的に学ぶ姿勢、協同する力、課題解決するための整理分析をする力を育てる。	児童アンケート肯定的回答80%以上。各単元で設定したルーブリック評価規準、B規準以上の児童の割合90%以上。	児童アンケートノート ワークシート	3	児童アンケート①「学習のふりかえりをするときには、『もっと考えてみたいこと』『もっと調べてみたいこと』『もっと工夫してみたいこと』などを考えています。」の肯定的回答は、79%であった。②「『総合的な学習の時間、生活科』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」の肯定的回答は、58%であった。各単元で設定したルーブリック評価規準、B規準以上の児童の割合は95%だった。②については1学期末と比較して、20ポイント以上下がった。児童が自分の力の伸びを実感し、達成感を持つことができる授業を仕組んでいく。
		基礎基本の定着を図る。		教科等の特質に応じた見方、考え方を習得する授業改善を進める。常タイムや補充学習・家庭学習における基礎基本の力をつける取組を継続し、学力の向上を図る。	国語・算数の学期末・単元末テストの合計が期待平均以上の児童の割合70%以上。	単元末テスト 学期末テスト	4	期待平均点以上の児童の割合は、国語82%、算数70%である。最後まで粘り強く取り組む力がさらに伸びてきている。漢字のテストで、期待平均以上を大きく上回る結果が見られた。3学期には、漢字検定や標準学力テストも行われるので、授業や家庭学習を工夫し、力をつけていく。
豊かな心の育成	自分も人も大切にできる児童を育成する。	自己指導力を高める。	生活安全	・ルールや決め事の内容及びその意味を児童に周知する。 ・児童会で決めた月目標達成に向けて取り組むことを通して、より良い生活を送ろうとする意識を高める。	児童会月目標を意識して生活する児童の割合を80%以上にする。	児童会月目標の反省結果	3	10月の児童会月目標「時間を守る。静かに集まり、静かにまつ。」について、82.6%が「守れた」という評価をした。高学年が全校児童に時間を守るように働きかけるキャンペーンを通して、より良い生活を送ろうとする意識を高めることができた。
		自己肯定感を高める。		・児童理解の職員研修を行い、共通認識を持って児童へ関わる。 ・人との関わりの中で認め合う取組を仕組む。	児童アンケートにおける肯定的評価の割合を70%以上にする。	児童アンケート	2	児童アンケート「自分のいいところや得意なことを3つ言える。」「自分のことが好きです。」の肯定的回答は、それぞれ58%、50%であった。1学期の71%、75%に比べるとかなり下がった。どちらも昨年度並みにとどまっている。アンケートをもとにした個別の面談等を通して個々の様子をとりえながら、今後も、肯定的評価をして自己肯定感を高めるようにする。
健やかな身体力の育成	たくましい ^{からだ} 身体を持った児童を育成する。	基本的生活習慣を確立する。	生活安全	・ノーメディアを中心に取り組み、規則正しい生活リズムの確立を目指す。	・学期に1回ノーメディアの取組を行い、自分が立てた目標を達成できた児童の割合を80%以上にする。	がんばりカード	3	1学期のノーメディアの取組では目標の達成率は57%、2学期は72%であった。ポイント制にし、楽しくチャレンジできるように工夫することで多くの児童が意欲的に取り組んでいた。また、保護者もノーメディア週間中は子供とのふれあいの時間が増えたなど肯定的意見が多かった。しかし、取り組むことが体が難しい児童が何名おり、個々の置かれている状況や心情なども踏まえた上でアプローチしていく必要がある。
		体力の向上を図る。		・めあてを持たせて運動に取り組ませる。 ・業間運動の充実や体育科授業改善を図る。	・1学期は、一輪車カードから各自1つの種目を選び、その種目の達成率を80%以上にする。 ・2、3学期は、新体カテストで一昨年度の県平均を下回った種目(2種目)において、前回記録を上回った児童の割合を80%以上にする。	一輪車カード 新体カテスト	2	1学期に実施した新体カテストの反復横跳びでは、一昨年度の県平均を上回った児童が56%だった。その結果を受け、2学期は反復横跳びについて2回以上記録を伸ばすという目標を持たせた。体育科や業間休憩に取り組んだ結果、前回記録を上回った児童の割合は65%だった。しかし、一昨年度の県平均を上回った児童の割合は83%となった。マラソン大会に向けても目標を設定することで意欲をもって取り組むことができている。
開かれた学校づくり	信頼される学校づくりを推進する。	情報発信を積極的に行い、保護者・地域の理解を深める。	総務	・学校からの便りやHPの更新を通して、情報提供を行う。 ・来校の機会を通して、互いの理解を深める。	学期ごとに行う保護者アンケートにおいて、肯定的な評価を90%以上にする。	保護者アンケート	3	保護者アンケートで「学校からの便りやホームページ、PTA集会等を通して学校の様子がよくわかる。」という項目は81%だった。学校での取組の様子を、学校便りやHP、学級通信を通して情報発信し、理解を得ることができたと思う。
		働き方改革を推進する。		・優先順位をつけて効率的に業務を進めることの習慣化を図る。 ・日々の業務や学校行事等の持ち方を見直し、児童と向き合う時間を確保する。	指針に沿って、次の数値以下にする。 勤務時間外在校時間 月45時間	勤務時間外在校時間記録表	3	勤務時間外在校時間 月45時間以下の達成状況は、4月から11月においては82.1%である。勤務時間外在校時間が縮減されてきており、月45時間以下を目安にしながら効率的に減らし、優先順位をつけながら業務を進める意識を持って日々の業務に取り組むようになってきている。校内研修等を通して働き方を見直し、取組を継続する。

評価基準

4:100%達成 3:80%おおむね達成 2:60%以上達成 1:60%未満